

デマンド乗合交通「かつらいど」で 自宅付近からドアツードアの移動を実現

誰もが安心して移動できる公共交通に向けて



森田昌男さん

かつらぎ町企画公室室長補佐 森田昌男さん

昨年10月からかつらぎ町ではタクシー車両で自宅付近からスーパ―や病院などへドアツードアで行く、デマンド（予約型）乗合交通の実証運行を始め、今年4月から本格運行を開始しました。
会員の東芝かつらぎ町議と事務局の大前で担当課の森田室長補佐に話を聞きました。

かつらぎ町は、南北に細長い地形で、北は和泉山脈、南は紀伊山地の山間部で、中央部に紀の川が流れ国道24号線とJR和歌山線が通る市街地を形成し、人口15967人、高齢化率40.3%（2020年国勢調査）果樹栽培が盛んな町です。

かつらぎ町での

公共交通の経緯

大前：かつらぎ町全域（花園地区を除く）で、自宅まで来るデマンド乗合交通「かつらいど」を実施した経緯を教えてください。

森田：私が令和5年度に企画公室に来た時には、交通政策係は無く、コミュニティバス（以下「コミバス」）は総務課で、地域公共交通は企画公室が担当で、役割も明確でない状態でした。令和6年度から具体的な方向性を考えるようになり、コミバス業務が企画公室に移ったのは令和7年度です。コミバスは南部の山間部を中心に、天野、新城・花園コースがあり、街の中央部、笠田駅から国道24号沿いを県立医科大学附属病院の紀北分院まで行く通院コースがありました。それ以外では、北部や妙寺の方の街中、あと河南の紀の川沿いを中心にデマンド型の乗り合いタクシー（以下「乗り合いタクシー」）予約で時刻表の時間に停留所まで来るタクシーを走らせていました。しかしバス停まで行けない、近くにルートがない、時刻表が決まっていって行きたい時に乗れないなど住民の不満があったので、まず乗り合

いタクシーを見直していこうと考えました。予約により自宅などに来る乗合交通「かつらいど」を令和7年10月から実証運行するようになり、令和8年4月から本格運行しています。
東芝：乗り合いタクシーの経験も役に立っているからな。
森田：そうです。乗合タクシーは予約を入れて時刻表の時間に停留所まで来るのですが、実証運行中は、同時に走らせると効果が図れないので、半年間休止しました。今は「かつらいど」とコミバスだけになっています。

利用者が6倍になった

大前：利用者はどうなりましたか。

森田：乗り合いタクシーは、令和6年度1年間で1500人を超えるぐらいの利用者でしたが、「かつらいど」は半年間の実証運行で、約4500人。年間で単純計算すれば利用者は6倍になります。

東芝：それが今もまだ伸びていると。

森田：大成功だと思っています。最初、実証運行するにあたって、料金を1回600円（往復したら1200円）、も

目次

デマンド乗合交通「かつらいど」で自宅付近からドアツードアの移動を実現 誰もが安心して移動できる公共交通に向けて かつらぎ町企画公室室長補佐 森田昌男さん……	1
図書館の指定管理問題を期に、 住民参加で図書館を育てる取り組みを進めたい 有田川町の図書館を考える会事務局 宅田紀子さん……	5
日高地区医療問題懇談会 地域医療の危機、ひだか病院の赤字問題について語る……	8

わかやま住民と自治

発行／和歌山県地域・自治体問題研究所
和歌山市太田2丁目14-9 太田ビル203号
TEL・FAX 073-488-3127
jichiken@crux.ocn.ne.jp 2026年5月号



令和8年
4月1日(水)から

**本格運行
します!**

「かつらいで」とは

- 決まった路線や時刻表はありません
- 複数の利用者が乗り合って利用します
- 5人乗りの乗用車でほぼドアツードアの運行
- 事前の登録と予約が必要です

運行日時 平日のみ(土日祝、12/31～1/3は連休)
8時～19時30分(最終乗車)まで

運行エリア 町内全域(花園エリアを除く)

運行内容 まちなかポイントとは、まちなかエリア内にある乗降ポイントのことです

おでかけ便	オンデマンド運行	帰宅便
8:00～8:40	9:00～17:30	17:30～19:30 (最終乗車)
 <p>おでかけ便 ご利用可能エリア</p>	 <p>オンデマンド運行 ご利用可能エリア</p>	 <p>帰宅便 ご利用可能エリア</p>

おでかけ便・帰宅便をスマホから予約をされる方は、予約する便を選んでから時間設定をしてください。

運賃 (5歳未満は無料・小学生以下は半額)

1回の乗車 **600円**

または、
乗り放題 **月額 3,000円**

支払いは降車時に運転手へ
現金 クレジットカード PayPay

月初めがお得!!
定額乗り放題は **月初** から利用しても
月途中 からでも **月末** までが期限となりますのでご注意ください

ご利用の **2週間前** から **60分前** までご予約いただけます。

スマートフォンやWebをご利用の方は、右の二次元コードを読み取るか、かつらぎ町公式LINEからご予約いただけます。

予約はこちら **0736-22-3333**
予約受付時間 (7:00～18:30)

かつらぎ町 HP 「利用案内チラシ」

しくは月額乗り放題で3000円(乗った日から月末まで)にしたのですが、実証運行では初めて利用した月は無料にしたので、10月の利用者は無料で約600人の利用がありました。僕は良いスタートだと思ったのですが、無料だからという話もありました。しかし、その後もどんどん利用者が伸びていったので、それだけ需要があったと思っています。

大前：地域公共交通会議を何回も重ねてこられたみたいですが。
森田：令和6年度中に新しく「かつらぎ町地域公共交通活性化協議会」(以下「協議会」)を立ち上げて、令和7年度に実証運行の協議をしました。それで7回開催したと思うのですが、町の地域公共交通計画がなかったため、計画の策定と実証運行を同時にやることになりました。周りから見

ると、無理じゃないかと言われる強行スケジュールでしたが、計画を策定しないと町の補助金も受けられない。また、1日でも早く運行してほしい、運行したいという思いもありました。

「コミバスとの共存の手立てと相乗効果

大前：実証運行で、コミバスの乗客数はどうなりましたか。

森田：コミバスの利用者は年間1万人を超えています。懸念したのが、お客さんの取り合いになるということで、こういう運行をしたいと思って、バス事業者が反対される事もあると思うのです。そこは事前にバス事業者と打ち合わせをする中で、理解をいただいていた。実証運行をさせていただきます。半年間の実証運行中はコミバスの利用者も増えたので、相乗効果だと思っています。

東芝：コミバスは2000円で、「かつらいで」に乗り続けばタクシー代は無料になる。

森田：元々やっていたので、コミバスから乗り合いたくしーに乗り継ぐ時やその逆も、先に乗った方で2000円払えば乗り継ぎ券で、あとの方は無料で乗れるようになっていました。これは、コミバスと「かつらいで」の両立のための施策で、協議会の中でも、お客さんを取り合うのではなく、自家用車に乗っている方が、公共交通を利用するようにパイを増やしましょうと、JRやバス、タクシー事業者にもそんな話をしています。結果的にコミバスも利用が増えたので悪影響はなかったということになっています。

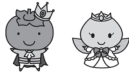
大前：花園地区には別の公共交通があるのでですか。
森田：社会福祉協議会が、交通空白地有償運送で社協の車を使った「ふれあいサービス」という送迎サービスを行い、自宅から花園内と有田川町清水の一部に送迎しています。花園には病院がなく清水の医院に通院出来るようになっています。

「かつらいで」運行のエリアと運行方法

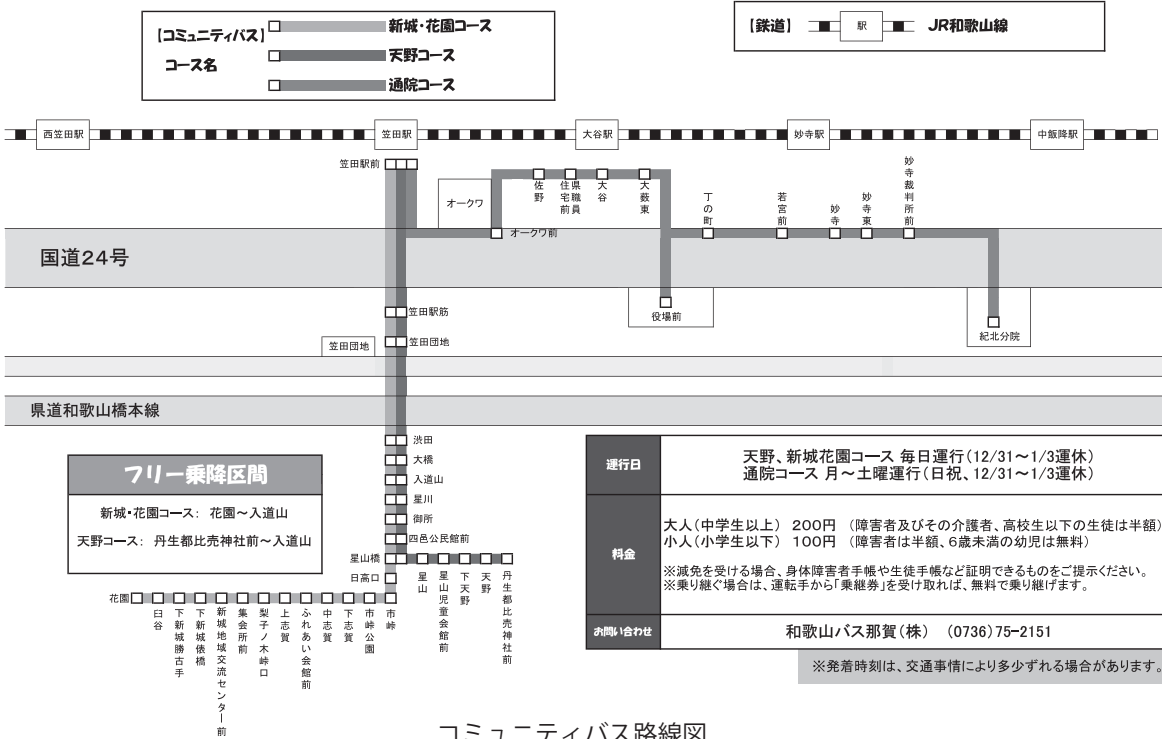
大前：「かつらいで」の運行エリアと、まちなかエリアの運用はどうなっているのですか。

森田：エリア型デマンドなので、自分の住んでいる地域内と、自宅とまちなかエリア間の移動になります。まちなかエリアでは病院やスーパーなどの目的地をまちなかポイントとし、そこへの移動となります。

大前：エリアというのは。
森田：笠田、四郷がひとつのエリアで、妙寺、大谷のエリア、見好、三谷のエリア。四邑、天野、志賀、新城のエリアと大きく四つに分かれています。例えば四郷の人が天野の丹生都比売神社に行くとなったら、乗り継ぎポイントが



かつらぎ町コミュニティバス路線図



コミュニティバス路線図

2箇所(笠田駅、妙寺駅)あって、そこで違う車両に乗り換える必要があります。1台で四郷から天野に行くことは出来ません。妙寺や笠田町の中央部であれば、地域内でも物事が完結するのですけど、山間部の方

ではそうはいかないので、まちなかエリアの中にある生活に必要なスーパー、病院、金融機関、飲食店や散髪屋さんとか、そういったポイントへの利用を中心に考えています。まちなかエリアは、北は広域農免道路、南はフルーツラインまでの間になります。

大前：運行事業所はどうなっているのですか。

森田：コミバスは紀の川市に本社のある和歌山バス那賀(株)、「かつらぎ」は、かつらぎ町に本社のある(株)有交紀北が運行しています。

東芝：この乗り放題3000円はタクシーの運転手さんに言えばいいのですか。

森田：そうです。お金のやり取りは全部車内でやっていきます。支払いは、PayPayとかクレジットカードも使えます。コミバスは現金しかダメですが、タクシー事業の車を使っているので、そういうところは便利です。

大前：「かつらぎ」乗車代600円は、以前の「乗り合いタクシー」の料金ですか。

森田：乗り合いタクシーは200円だったのですが「かつらぎ」はタクシー運行に近いので、その金額で運行すると、タクシーの需要が無くな

るとい話になって600円にしました。初めはタクシーの利用者も、ある程度減ったのですが、結果的にはタクシーのお客さんもそんなに取ってないようです。「かつらぎ」は、今までタクシーを使っていなかった方が使っているというのが、運行事業所の印象です。

大前：町からの補助金という形で運行事業所のタクシー会社に支払うのですか。

森田：運行は5台の車両を確保していただいて、1日1台いくらかという経費と、オペレーターさんの経費が必要ですが、そこから収入を差し引いて残りを町が補助するという形です。

東芝：運行の受付は、電話でのオペレーターとかつらぎ町公式ラインで出来るのですが、配車のコンピュータシステムが、すごい役割を果たしています。

森田：配車にはAIシステムを使って、電話の受付もシステムに入れていきます。

東芝：データー蓄積をすれば、おばあちゃんが電話で、どこそこへ行きたいと言っても、今まで行つたことがないのに間違いはないですかと確認できる。受付した瞬間にどこま

で行くのかわかるようになってきます。

森田：かつらぎ町の公式ラインに連携させているので、公式ラインから、予約や申請などいろいろ出来る一つに組み込んでいます。ラインで予約すれば、予約した時間が近づいたら、何時頃行きますという連絡が入ります。「かつらぎ」は乗合なので予約時間どおりに行けるとは限らないのです。

東芝：そのシステムがすごいのは、実証して改善のために様々なデーターが蓄積されることです。

森田：もつと優れたシステムも多分あると思うのですが、どこで降りた利用が多いかと言えば、一番はスーパーで、次は病院とかです。利用者で多いのは80代の方で、まだ運転されている60代、70代の方も、徐々に運転をやめて使わなくなってきています。

東芝：そうやっていくわ。夜は運転出来ないとか。

森田：「かつらぎ」では最終夜の7時半の便なら高校生が電車で帰ってきた時に乗れます。コミバスで天野とか新城市に帰るには、最終便は5時台なので、クラブを途中で切



「かつらいど」運行車両

どんな交通政策を 行うかの設計が大切

東芝：初めの方向性が、バス
停方式にするのか、家まで迎

り上げたり、クラブに入らな
いという子がいました。高齢
者だけじゃなくて、学生さん
の親御さんの送迎負担の軽減
にもつながっています。天野
地域の学生さんとかが、行き
はコミバスや家族に送っても
らうけど、帰りは「かつらい
ど」で帰るといいう利用もして
います。

えに行くのかというそこらの
議論にものごく時間がわか
ると思います。

森田：そうですね。お金の面
を先に考えずに、運行の内容
をある程度決めて、それから
タクシー事業所と話していく
中で、結構費用もかかるけど
最終的に今の形になりました。
バス停を残してしまうと、家
からバス停までの移動の問題
は解決しないので、そこは思
い切つていこうという話にな
つて実現しました。

実は私たちはデマンドタク
シーと言ってなくて、デマン
ド乗合交通と言っています。
2人以上の乗り合い率は、月
にもよるのですが20%を超え
ています。運行する側は乗り
合いになった方がいいのです
が、利用者からは、乗り合い
は移動時間がかかったりする
ので不便になったりします。

これぐらいが良いように思い
ます。1乗車は最大でお客さ
んは4人です。
大前：この事業への国の援助
とかはあるのですか。
森田：一部はあります。ただ、
補助金は、実証運行ではたく
さん出たのですが、本格運行
で言えば、数千万かかる中で、
数百万というぐらいです。あ
と、特別交付税の算入の対象

にはなりません。

これで利益が出るのなら民
間がやっているという話です。
交通の勉強を始めて、いろ
いろ分かってきました。民間
でできないから、地域公共交
通が必要だという話です。そ
こに対して、いくらでもお金
をかけていいというわけでは
ないけれども、一定額の投資
は必要だと思います。ただ、
お金を使つただけ利用が少な
いというのはどうかと思いま
す。

交通政策は基本的人権 実現でクロスセクター 効果もあると言われる

クロスセクター効果という
話も交通の分野では言われま
す。福祉や医療など、違う分
野に効果が出るということ
です。「かつらいど」登録に
社協やケアマネさんとかの福
祉部門の方が積極的に動いて
いただいています。高齢者の
一人暮らしの方は家で閉じこ
もりになると健康にも良くな
い。外へ出ようよ、外出機会
を増やそうという話を、以前
からされていて、「かつらい
ど」が外出機会を増やす手段
になるといいうので、どんど
ん登録を増やしてくれています。
直接の費用対効果だけでは成

り立ちにくいことをやってい
るので、外出することで、医
療費や介護費用とか違う分野
まで効果が出るというところ
も見ないといけない。お金を
かけずに、今までどおりなら
便利にもならないし乗る人も
少ないということになります。
東芝：自治体が税金を使つて
なにを支えるかと言えば、や
はり住民の交通権を保証して
移動を実現する。それを通じ
て、基本的人権を実現し住民
の幸せにつなげていくとい
う事だと思えます。

大前：制度を始める前のアン
ケートなんかも取っているの
ですか。

森田：一人暮らしの高齢者も
どんどん増えていきますし、
アンケートの中で、自分で運
転している方とそうじゃない
方の外出機会を比べると全然
違います。先ほど言った話も、
協議会の会議で、有識者の大
学の先生や交通の専門家の方
から話をさせていただきました。

議会の要望と、 実現できた要素

東芝：実は全国に、「かつら
いど」とほぼ同じ事例がある
のです。5年ほど前にかつ
らぎ町議会が福岡県の八女
市（やめし）に、話を聞きに

行きました。そこは以前から
実施しているの、だんだん
利用実績が減っていました。
「減ることは問題ではありま
せん。利用者数は人口減少に
伴つて減っています。だから
利用はものすごく減っていま
す」と言つて、全部データ
を取つていて、なぜ減ってい
るかわかるので、すごく自信
を持つて言っていました。

紀の川市は住民の運動で公
共交通を実現させたけども、
かつらぎ町は、声を上げてい
たのは議会で、早くからこれ
をせよと言つてきたのです。

森田：実施にかかわつてきて、
他の自治体でも同じようにす
ぐにやれるかと言えば、少し
疑問に思います。うちは事業
者がタクシー、バス事業者と
も1社ずつしか関わっていま
せんが、複数あったら調整が
難しいし時間がかかると思
います。また、ドライバーさん
の確保がなかなかできない交
通事業者もいますが、有交紀
北タクシーはドライバーさん
を確保出来ていたので、スム
ーズに実現しました。

大前：お忙しい中、お時間を
とつていただいて、貴重なお
話をありがとうございます。
今後ともよろしくお願ひいた
します。

図書館の指定管理問題を期に、 住民参加で図書館を育てる取り組みを進めたい

有田川町の図書館を考える会事務局 宅田紀子 さん



宅田紀子さん（アレックにて）

有田川町は気軽に利用できる図書施設のアレックを設置し、10年以上前から絵本を通じたまちづくりを推進してきました。2024年9月議会にアレックと図書館の指定管理条例が提出され、議論になり議会では否決されました。この間に「有田川町の図書館を考える会」が作られ、学習会や図書館の充実を求める取り組みが行われています。会の事務局の宅田紀子さんにお話を伺いました。

有田川町は、2006年1月に吉備町、金屋町、清水町の合併によって生まれ、人口25258人（20年国勢調査）の町に4つの図書施設、アレック、ぼっぼ絵本館（アレック敷地内）、金屋図書館

（児童書専門）、しみず図書館（八幡中学校内図書室）があります。

図書館指定管理の 議案否決

2024年9月議会にアレックと金屋図書館の指定管理の議案が教育委員会から提案されました。議会前の8月22日と、9月4日に総務文教福祉常任委員会で議案の説明があり、住民の賛同を得ていると説明がありました。しかし、その前に開催された図書館協議会やアレック運営協議会では、指定管理の議題は出されて

おらず、可否も採られていません。

こんな中で、教育委員会は、7月に要綱を改正して、教育ニュービジョン審議会を新設し、その月のうちに2回立て続けに会議をしたのです。アレックの指定管理の話が出て賛否は両論だった。採決は採っていないということでした。それを議会の常任委員会では住民の賛同は得られているという説明をして、議会に上程して、結局は否決という形になったのです。ここで話が終われば、特に大きな問題もなかったのですが、話は終わってなかったのです。

その後七続く 図書館軽視？

その後、私が知ったのは、アレックの蔵書（漫画4万冊、一般書4万冊）8万冊のうち1万5千冊が廃棄されたというのです。それは、指定管理の話と同時進行で廃棄が始まったということです。また、議案が否決された後、4月にかけて、職員16名のうち6名が減らされました。図書館協議会では、「アレック

ク事務室へ行っても。電話が鳴っているのに受ける人もいないぐらいバタバタして人が足りない。教育委員会に、なんとか人を増やして欲しいと言っている」という声も委員から出されています。

結局指定管理案が否決された後に、蔵書が1/4減らされて、職員が1/3減らされたという事が分かってきたのです。

この町には「絵本の町有田川」という絵本を活用したまちづくりの取り組みがあつて、100名を超す絵本に関するイベントとか読み聞かせのボランティアの方がいるのです。各こども園、小学校、老人福祉施設、学童保育所にボランティアが行って読み聞かせをしています。しかし、例年開催されてきたボランティアが主体になるような、「絵本でわっしょい」や、絵本作家さんが監修する「お化け屋敷」のイベントが昨年なくなったのです。それにかわって影絵劇や人形劇がやられたのですが、それはボランティア参加がなくてもできるのです。指定管理に変わると、ボランティア参加のイベントがど



地域交流センターアレック (図書施設)

うなるか、危機感を持ちました。
それで、私が疑問点を聞きに教育委員会に行きました。私が「自治体に図書館がないのは恥ずかしいことだ」と言ったら、担当者は「全国の自治体の2割は図書館がないですよ。だから有田川町にも図書館がなくてもいいのですよ」と答えました。「教育長

は本格的なカフェにして人を呼びたいと言っています」と言って、指定管理にするというの、この本を減らしてスペースを空けて、もっとカフェ的な交流施設にしたい。そう考えているのが分かったのです。

「有田川町の図書館を考える会」で学習会を開催

議会にかかる前の教育委員会の定例会に、こういうのが出ているらしいということで、有志で相談する場を持ち、集まった人を中心に「有田川町の図書館を考える会」(以下「考える会」)をつくりました。それは個人参加の5人の世話人体制の組織ですが、そこで、学習会をしようという話になりました。この時に、教育委員会の担当の方が、和歌山大学教育学部出身であったため、元和歌山大学学長の山本健慈先生に来ていただいていたことよに学びましょうということになりました。2025年6月に、山本先生を呼んで学習会「図書館から考える町づくり」を開きました。参加者は

50名を超える程集まり、すごく良いお話をしてもらいました。(巻末資料を参照下さい)

新町長が指定管理の計画はないと表明

私も状況がきちんと分かっているわけではないので、いったん議会で否決された構想が、なぜその後も進められたのかは分かりません。とにかく議員さん、教育委員さん、教育ニュービジョン審議会、図書館協議会の所にみんなで手分けして事情を説明しに回ったのです。後で知ったのですが、こういうのはロビイスト活動と言うらしいのですけど、そういう活動をやりませんでした。結局、2月の町長選挙で当選した坂頭町長が2026年3月議会で指定管理の計画はないと改めて表明しました。

この間の取り組みで改善されたこと

そんな活動をしているうちに、いくつか成果があつて、一つは町長や教育長は「全国の自治体のうち、2割は図書

館がないから、図書館がなくとも構わない」と議会答弁していたのですが、「図書館は大事です」と議会できちんと答弁しました。また、アレックの図書施設は、選書基準と廃棄基準がなかったのですがきちんと明文化されました。「利用者のリクエストを受け付けます。廃棄基準も作りました」となったのです。でも廃棄された本は、休校になった小学校に置いてあつて、どうするかは決まっています。職員は以前の16名が10名。館長が正規職員で司書、会計年度任用職員が9名で何名かは司書です。今回一名は増やすと聞いていますが以前に比べれば2/3という状況です。

ボランティア参加のイベントも、今年は「絵本でわっしょい」がボランティア参加で出来る見通しになって、実行委員会を組むところまで来たといえます。

図書館視察と個人的な感想

県内外の図書館視察を行いました。「考える会」で行ったのは、有田市と湯浅町、広



ポットボみちにある絵本作家の壁画

川町(交流センター)。あとは個人的に行きました。県立図書館、和歌山市、海南市、紀の川市、岩出市、御坊市、田辺市、新宮市、日高町、京都府立、熊取町。どこかへ行く度に図書館に行っています。本当に図書館っていうのは住民の文化的な顔だと思えました。

有田地域の図書館では、有田市図書館が良いと思えました。全体のスペースはアレックより狭そうですが、閲覧席もいろんな席があつて工夫され、郷土資料のスペースは大



金屋図書館 (児童書専門)

大きく、市民の個人出版の資料なども収集しているし、初島空襲とか市内の資料とかが、手に取りやすいところに置いています。また、雑誌や本の選定、書架整理も司書の手が入っていると感じました。湯浅町立図書館は施設が新しいけど本が古いように感じました。広川町立図書館は、司書の方が住民の声も聞いているように思えたのですが、交流センターという括りがあるように思いました。

私的には新宮市の丹鶴ホールの新宮市立図書館が印象に残っています。熊野川の河口を見下ろし、川上から熊野古道下りの船が降る。右手に新宮城址、左手に速玉神社があるところで、すごく賑わっていました。やっぱり新宮は文化水準が高いなと思ってしまいました。図書館はやはり地域の文化の顔です。

有田川町図書館協議会の議論

有田川町図書館協議会は、京都橘大学の嶋田学教授を参考人に呼んで助言をいただきました。嶋田先生は、アレックも金屋図書館も図書館法の適用される総合図書館を目指すのがいいのではないか。特にアレック周辺の吉備地区で若い人が増えているので、児童図書充実させる。書架スペースが少ないのはキャスト付きの書架などで工夫をしてスペースを作る。交流センターの役割もあるが、町民はここが図書館だと思っているので、図書館と社会教育の共通する目的を追求するなかで図書館として充実させていく

これからの取り組みと指定管理について

住民参加の図書館作りをという話をされました。

私達はアレックの総合化、図書館法が適用される図書館にさせていきたいと願っています。

これからは住民参加で図書館を育てていくというのが、山本先生や嶋田先生のお話でした。各地の図書館を見学に行つて、そのとおりだと思いを強くしました。

これから図書館だよりみたいな感じで、「図書館を考える会」のニュースを発行したいと準備しています。

それと、山本先生の学習会でカンパを募つて、余つたお金が少しあるので、それで読み聞かせのための本を買つて寄贈したいと考えています。

その時に町長さんとも懇談して、町長は住民参加の行政を作ると言っていますので、図書館も住民参加でやりましょうというお話をしたいと思っています。

図書館ウォッチングも続けていきたいと思っています。

指定管理に関しては、一概に指定管理を否定するものではないのですが、海南ノビノスとか和歌山市民図書館の話を聞いたら、最低賃金に近い条件で、どんどん職員が入れ替わっているらしいのです。図書館を育てる専門職が育たない。まずは住民参加の図書館づくりを進めていきたいと思っています。

参考
山本健慈氏「住民参加の図書館づくり、図書館運営」(月刊「住民と自治」)2019年12月号より)



第68回自治体学校 in 大阪

「憲法が危ない 地方自治こそ未来の希望」

今年の自治体学校は、大阪で開かれます。先の総選挙では、自民党が過去最多の議席を獲得し、改憲勢力が圧倒的多数の議席を占める結果となりました。そんな中で開かれる自治体学校です。ぜひ参加をご検討ください。尚、受付は5月1日からとなっています。

- ・日時 7月11日(土)~12日(日)
- ・全体会 大阪市中央公会堂 (大阪市北区中之島1-1-27)
基調講演 「地方自治と地域 この1年から考える」
中山徹・自治体問題研究所理事長
記念講演 「世界とつながり、行動する:ピースボートの取り組みから」
畠山澄子・ピースボート共同代表
- ・分科会 エル・おおさか、グリーン会館、国労大阪会館
10の分科会と講座「地方自治制度」
- ・参加費(会員) 2日参加 13,000円 1日参加 7,000円
※35歳未満の方は8,000円、4,000円

日高地区医療問題懇談会

地域医療の危機、 ひだか病院の赤字問題について語る



3月21日、御坊市民会館で行われたくすもと文郎はげます会主催の「医療問題懇談会」には、地域住民や医療関係者など30名が出席し、研究所の杉谷副理事長も参加しました。

楠本文郎氏の司会で始まり、懇談会の目的は、医療の危機的状況を政治課題として捉え、正確な現状把握を行いたい。特に、日高新報や紀州新聞で報じられたひだか病院の経営危機をきっかけに、地域住民から多くの不安や意見が寄せられていることが紹介されました。

2人からの問題提起

美浜町の龍神弘幸医師からは、診療所の実情が報告されました。

多くの診療所が赤字または経営維持が精一杯の状態であり、県内では毎年約40の医療機関が廃業し、新規開業は和歌山市周辺に集中しているため、地方の医療機関は減少の一途をたどっています。

医療経営は、国が決める公定価格の診療報酬のため、コスト増を価格に転嫁できず、経営を圧迫しています。

心筋梗塞や脳梗塞には「ゴールデンタイム」と呼ばれる時間枠があり、時間内に受診できる地域の救急医療体制が必要だと指摘されました。

和歌山県医労連の谷口浩平書記長からは、公立病院を取り巻く構造的な問題が提示されました。

2024年度、全国の公立病院の83%以上が赤字で、県内では11ある公立病院のうち8つが赤字となっています。ひだか病院も7億円を超える赤字を抱えています。

赤字の原因は診療報酬が低く抑えられていることに加え、入院患者数の減少、人件費や物価の高騰、高額な医療機器の負担などが挙げられます。特に医療機関は仕入れにかか

る消費税を転嫁できないことが経営の重荷になっています。国は「地域医療構想」に基づき、補助金(1床410万円)を出してまで病床削減を推進しています。県内ではここ10年で1700床が減らされ、精神科病床を3分の1に減らす計画も進んでいます。

地域医療の機能不全と 住民の切実な声

参加者から具体的な不満や不安が噴出しました。

医師が和歌山市に集中し、地方で分娩を中止する診療所が増えた結果、お産ができない地域が増加しています。

ひだか病院に対しては、初診時の待ち時間の長さや、救急受け入れの不備、管理職の多さ、職員の接遇への厳しい意見が出されました。

公共交通機関の便が悪く、高齢者が高額なタクシー代や長時間をかけて通院せざるを得ない実態が報告されました。ヘルパー等介護労働者の賃金は他業種に比べて極めて低く、人手不足と高齢化が深刻化しています。

ひだか病院の赤字報道により、先行きを不安視した看護師などの専門職が離職する悪循環も起きています。

地域医療を守るための 展望と運動

有田市立病院や岸和田市民病院の事例のように、住民がアンケートや署名を通じて声を上げること、産科の再開や独法化(民営化)の阻止を実現した教訓が紹介されました。

医療を「全国どこでも当たり前に受けられる権利」と捉え、赤字補填や交通インフラの整備など、行政が積極的に関与することが求められます。防衛費の大幅増額と比較し、医療費削減を進める国の姿勢を批判する意見も出されました。命を守るための予算配分への転換が必要です。

和歌山県の医療は「診療報酬の低さ」「物価高」「国の病床削減政策」という三重苦に加え、医師の偏在と過疎化により崩壊の危機にあります。ひだか病院などの地域中核病院を守るためには、単なる経営改善の議論に留まらず、住民が「地元の病院がなくなったらどうなるか」を自分事として考え、国や自治体に対して適切な財政支援と診療報酬の引き上げを求める大きな運動を検討する必要があるとされました。